

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

(アンケート回収対象者69名のうち、39名より回答を得た。割合は欠損値を除いて算出した)

### Q1 セミナーのことは何で知りましたか。(複数回答あり)

1 学会誌に同封されていたチラシ	11	(28.2)
2 学会のホームページ	8	(20.5)
3 学会のメールマガジン	7	(17.9)
4 他の雑誌の案内	0	(0.0)
5 関連団体のホームページ・メールマガジン	0	(0.0)
6 公衆衛生学会の時のチラシ	1	(2.6)
7 知人・友人より聞いた	19	(48.7)
8 その他	3	(7.7)

### Q2 これまでアドボカシーについて、教育を受けたり、学んだことはありますか(無回答13)

1 大学で学んだ	3	(11.5)
2 大学院で学んだ	1	(3.8)
3 職場のOJTで学んだ	3	(11.5)
4 本学期的セミナーやシンポジウムで学んだ	7	(26.9)
5 他学会や他団体の講習会などで学んだ	3	(11.5)
6 書籍等で自ら自修した	4	(15.4)
7 その他	5	(19.2)

### Q3 このセミナーに何を期待して参加されましたか

- ・ 昨年のセミナーにも参加したため、さらに、アドボカシーを深めたい
- ・ 企業のヘルスプロモーション向上の研究をしているため、それに関連する情報を得たい。
- ・ アドボカシーの理解とその実現のためのスキル向上
- ・ アドボカシーについての理解、実践の場にどう生かせるか。
- ・ アドボカシーの進め方、考え方
- ・ アドボカシーとは。
- ・ 様々な分野におけるアドボカシーの方法にどんなものがあるのか知りたい。
- ・ 政策への働きかけをどうしたらよいか学びたい
- ・ 今後、私自身が医療や介護、健康づくりと関わりながら、仕事を行っていくにあたって、私の考えを「真の医療とは何か」を追求するためと、それを推進するためのノウハウを得たいということを期待して参加しました。
- ・ アドボカシーについて初心者なので、どういったものなのか知りたかった。
- ・ アドボカシースキルとは何か。それを向上させるとはどういうことか。それらを学びたいと考えました。
- ・ GW
- ・ アドボカシーの基礎
- ・ アドボカシースキルを知ること
- ・ アドボカシーの詳細を知りたかった点と、ワークショップで、皆さんの考え方を知り、勉強したかった。
- ・ アドボカシー実践方法を学ぶ。
- ・ 現場の実態を把握すること。どのように実践するのが効果的なのか学ぶ
- ・ アドボカシーの概念を知る
- ・ 現場でおこなっていたことと、学会で考えていることが、どう違うのか

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

### Q3 このセミナーに何を期待して参加されましたか

- ・ アドボカシーの概念と、考え方、進め方を実例を通して知りたかったため。
- ・ 企業への具体的かつ効果的な提言方法
- ・ アドボカシーの定義
- ・ アドボカシーという言葉は聞いたことがあるのですが、概念もわからないので、理解を深め、実践していくためのスキルを学び、今後の業務に活かしたいと思い参加しました。
- ・ アドボカシーのフレームワークを知りたい
- ・ 健康経営の会社マネジメントへの説得のためのアプローチ方法を固めるため
- ・ 個人的に関与していることと関係が深そうだったから
- ・ アドボカシーの理解と実践
- ・ アドボカシーを理解するため
- ・ 健康経営に参加する企業を増やす活動に参考にしたい。
- ・ 具体的な行動について知ること
- ・ アドボカシーとは、何かを自分にとって再整理する。
- ・ アドボカシーに関する自分の考え方のリバイスのため
- ・ 現場の食育で何が行われているか知りたかった。
- ・ アドボカシーとは何かということ
- ・ アドボカシーについて、皆とあーでもない、こーでもないと話すこと（楽しそう）
- ・ 企業内で展開している健康増進施策の推進方法のヒントを得るため
- ・ 行動変容を促すスキルの習得
- ・ 食育の評価を全国に広める方法を学ぶため（具体的にアドボカシーを学べました）
- ・ 参加者の方から具体的にアドボカシーの意見をもらう。アドボカシーモデルに、現在取り組んでいる活動を当てはめてもらいたかった。

### Q3-2 セミナーに対する期待は満たされましたか（無回答2）

1 非常にそう思う	4	(10.8)
2 そう思う	28	(75.7)
3 どちらともいえない	5	(13.5)
4 そうは思わない	0	(0.0)
5 まったくそうは思わない	0	(0.0)

### Q4 今日のセミナーに参加して、得られたものは何ですか

- ・ 私の研究に関するディスカッションをしてもらえて、たくさんの情報をえられた  
いろいろな考え方があることがわかった。
- ・ 私の理解しているアドボカシーは「声なき者の代弁」という意味でしたので、「誰が」行うかの共通理解が必要かと考えました。  
興味のあるテーマで参加できたため、とても参考になった。手順を少し理解できた。アドボカシーのレベル、範囲が様々であること。  
アドボカシーを進めるワークシートが、多くの人の理解を得やすい形ではないので、少しずつ改めていくのが良さそう。
- ・ 得られたものは、アドボカシーの進め方と考え方
- ・ 現実的なものも、極端なものであっても、アドボカシーのあり方、様々な意見を知ることができ、良かった。

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

### Q4 今日のセミナーに参加して、得られたものは何ですか

- ・ 順序を守って、何かを推進していく方法  
アドボカシーの概要は何となく理解できたが、実際、自分がどう活用できるかは不安。もっと経験をつみたいと思った。
- ・ 中範囲の理論に添って課題解決に取り組むワークショップの楽しさと限界を理解したこと
- ・ ステップを使って、アドボカシーを具体化する
- ・ フレームを持ち帰ることができた
- ・ 学会でなにかできれば一緒に行きたいと思う。アドボカシーに関する多くの情報を得ました。
- ・ 現場の生の声
- ・ 目的に対するアプローチの方法、考え方
- ・ 誰に対しておこなうアドボカシーか  
アドボカシーを考えるうえで、エビデンスが研究のみでなく、一般の方の素朴な疑問でも取り上げていいことを知ることができ、だれでも行えること、誰でもやっていいことがわかった。⇒思ったら声に出すことの必要性を改めて感じた。
- ・ 具体策。アドボカシーの考え方、手法  
概念を理解できたかなという状況です。グループワークや発表を聞いて、自分自身のスキルの積み重ねが必要だと思いました。  
社員の健康リテラシーの向上をコーポレートメッセージにリンクさせる。従って、会社により異なる。健康リテラシーの向上には、学び方の会得ばかりでなく、行動変容でどう行うかが重要。
- ・ ☆テーマの設定の仕方が難しいと思いました。会社によりテーマが異なり、問題解決の方法／解決策など異なる中で、ディスカッションが難しかったです。
- ・ グループワークをやってみて、テーマの抱えている問題へのアプローチのやり方が明確になった。  
アドボカシーの定義。具体例で考えることで、自分事としてとらえられた。多くの職種、業種が集まり、刺激になった。
- ・ アドボカシーをする先を決めることが大事だと感じた。
- ・ 他での取り組みや、考え方について考える機会になった。  
頭の中のモヤモヤが整理された。自分の中でのアイデアがあながち的外れなものでないことが確認できたよ  
うな気がして、少し自信がもてた。
- ・ アドボカシーを進めるために、専門家が何を議論しているかのポイントが理解できた。
- ・ アドボカシー→唱導→そのためのメッセージづくり・・・なのか？ということ
- ・ 多職種の方とディスカッションでき考えが深まった。
- ・ アドボカシーについて、どのようなものかを知ることができた。
- ・ 知り合いたいと思う人とつながれた。自分の思うことをディスカッションで言えた。
- ・ 学術的・専門的分野に携わる方の考え方、関心事項。  
アドボカシーを推進するための段階。パートナーシップを組む相手のアイデア。特に学ぶ仲間。アクション
- ・ 3の訳は、アクション4と重なると感じた。あえて言うなら、アクション3は大枠なプランでも良いのではないか？
- ・ アドボカシーのための6つのアクション
- ・ アドボカシーモデルの改善

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

Q5-1 アドボカシーの考え方や概念が明確になった		
1 非常にそう思う	3	(7.7)
2 そう思う	29	(74.4)
3 どちらともいえない	6	(15.4)
4 そうは思わない	1	(2.6)
5 全く満足しなかったそうは思わない	0	(0.0)
Q5-2 アドボカシーに必要な知識やスキルが身についた		
1 非常にそう思う	0	(0.0)
2 そう思う	23	(59.0)
3 どちらともいえない	15	(38.5)
4 そうは思わない	1	(2.6)
5 全く満足しなかったそうは思わない	0	(0.0)
Q5-3 アドボカシーに関わりたい、あるいは取り組みたいと思う		
1 非常にそう思う	12	(30.8)
2 そう思う	25	(64.1)
3 どちらともいえない	2	(5.1)
4 そうは思わない	0	(0.0)
5 全く満足しなかったそうは思わない	0	(0.0)
Q5-4 アドボカシーを行う自信がついた		
1 非常にそう思う	0	(0.0)
2 そう思う	14	(35.9)
3 どちらともいえない	21	(53.8)
4 そうは思わない	4	(10.3)
5 全く満足しなかったそうは思わない	0	(0.0)
Q5-5 アドボカシーについてもっと勉強したいと思う		
1 非常にそう思う	20	(51.3)
2 そう思う	17	(43.6)
3 どちらともいえない	2	(5.1)
4 そうは思わない	0	(0.0)
5 全く満足しなかったそうは思わない	0	(0.0)
Q6 ワorkshopのためのアドボカシーを推進するには、どのようなことが必要だと思いますか		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アドボカシーをきちんと知っている人日本におけるアドボカシーの専門家</li> <li>・ このようなワークショップの開催</li> <li>・ 行政（トップ、議員）との勉強会。事例の共有、発信。</li> <li>・ 専門職、行政、企業経営者への周知</li> <li>・ 自分の分野にとらわれず、広い視野をもつ</li> <li>・ 発信力をつけること</li> <li>・ 実際現場でいると、このような考え方というか、アドボカシーとしてとらえて実践していないので、現場で知っているひとが増えてほしい。</li> <li>・ 日々の業務を例にとり、自分の目標を設定をし、記録しながら考え方を習得していく。</li> </ul>		

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

### Q6 ヘルスプロモーションのためのアドボカシーを推進するには、どのようなことが必要だと思いますか

- ・ 保健医療の専門家以外のアドボカートの養成
- ・ 専門職へのアドボカシー教育
- ・ ステップ5のアドボカシー戦略の精査と強化
- ・ この学会や市民社会組織のような、アドボカシーを個人が社会に行っていくプラットフォームを整備していくことが必要だと思う。
- ・ 「ヘルスプロモーション」ということを知らない人々に知っていただく運動をする。
- ・ やり続けること。道なき道を切り拓いていくこと。実践活動のシェア。
- ・ 周囲の方が、アドボカシーについて知ることが必要だと思います。  
今回のセミナーでは、アドボカシーを行う人がもちろん学ぶ場であると思うが、誰に対して行うのかの、誰の部分の（エビデンスも含めて考え方なども）理解が薄いように思った。他にも同様な利用できるシートのなものがあるので、これを作って広める必要性があるかと思いました。
- ・ 思ったこと、感じたこと、考えたことを声に出すこと。
- ・ 声をあげること
- ・ 問題発見⇒課題の定義化
- ・ まず、教育。学ぶ（本、Web、学会）それを広げるための研修、シンポジウム
- ・ 日本語の定義の普及が必要だと思う
- ・ 各学会等での紹介や教育が必要だと思う。合同ワークショップを実施する。
- ・ 継続的な学習の機会。会員同志の情報交換。ファシリテーターの助言や相談の機会
- ・ 理解する専門家（人）を含む
- ・ 広く関係者が周知できるように、研修会（学会だけではなく）を開催したらよい。  
毎日の仕事の中で、プチ☆アドボカシーをして、いつも自主練しておくこと。そうでなければ、タイムリーヒットやホームランは打てない！
- ・ 当事者意識。幼少期からの健康教育の強化  
アドボカシーの実践事例を発表する。健康になることが目的ではなく、健康は資源なのだから、「健康をベースにした視点づくり」を乳幼児から高齢者のすべての人に根づかせる。
- ・ アドボカシーの方法論を学ぶこと。問題意識をもつこと。  
みなさん、アドボカシーはされていると思うので、理論的なことをこの学会で広めていくことは、とても意義があり、必要だと思いました。

### Q7 その他、学会として今後企画してほしいことなどがあれば、ご意見をお願いします

- ・ アドボカシーの成功例、失敗例、具体例の紹介
- ・ 東洋医学について、統合医療など  
学校の食事評価をするために、標準的な記入シートを作成していただき、現場での実践を記録しながら栄養士がその手法を身につけていくことができればと思います。
- ・ 公衆衛生の領域以外で実現されるべきアドボカシーの推進
- ・ 情報発信までのワーキンググループ活動  
グループ内は多職種で初対面なので、もう少しファシリテーターが話の交通整理をしてくれたら助かります。周りが話声で聴きにくかった。

## 170205「健康課題の解決に向けたアドボカシースキル向上セミナー（第3弾）」アンケート集計

### Q7 その他、学会として今後企画してほしいことなどがあれば、ご意見をお願いします

- ・ 勉強会
- ・ 引き続き、アドボカシーの実例を基に行ってほしいです。
- ・ 健康観の転換
- ・ 行動変容の課題に関するデータ収集⇔理論との検証
- ・ 10数年前に保健師雑誌（現在は名称がジャーナルへ）用語集に「アドボカシー」という用語がありました。実践として、セミナーがないと現場導入しにくいので、やっていただくとありがたいです。
- ・ 事業評価の方法について
- ・ 自身の組織で、研修の一つとして落とし込めるような資料&研修があると、ものすごく助かります。受講者が人に教えることでより理解深まるし、大勢に広まるので!!
- ・ 精神保健やメンタルヘルス、学校保健や保育保健。学会の特徴として、栄養・歯科・特保がメインになりやすいので、もう少し、幅広い人材が集まるといいなと思います。☆いつもセミナーの結果を学会誌に載せているのがとても良いです！☆日本公衆衛生学会の認定が取れるのはすごく良いです！（学会同志の連携が良い）

☆ あなた自身のことについてお尋ねいたします。		(人)	
1) 学会員ですか			
はい		21	正18 学3
いいえ		18	
入会したい		7	
入会したくない		4	
2) 性別は			
男性		10	
女性		29	
3) 年代は			
20 歳未満		0	
20 歳代		6	
30 歳代		6	
40 歳代		12	
50 歳代		8	
60 歳代以上		6	
4) 職種・資格は			
医師		2	
歯科医師		6	
保健師		6	
看護師		1	
管理栄養士・栄養士		10	
養護教諭		1	
健康運動指導士		0	
その他		9	
聴講のみ参加		0	
聴講とGW参加		0	